

しあわせの里  
令和 7 年度 第 3 回運営推進会議録

1. 開催日時 令和 7 年 8 月 22 日（金）16:00～17:00
2. 開催場所 しあわせの里交流スペース
3. 参 加 者 

（地域住民代表）

（地域住民代表）

高齢者福祉課）

（あんしん支援センター）

（利用者）

（管理者）

（事務員）

**【議題】**

1. 運営推進会議を活用した外部評価の実施 について
2. その他
  - ★ 利用者状況及び行事 について

**【内容】**

当日、委員の皆様と話し合った内容については、別紙の A3 サイズ資料に入力してお示ししております。

## 自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
<b>I. 理念・安心と安全に基づく運営</b>							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	④. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	「親切・公正、信頼・融和、地域交流」を理念として掲げ、職場に掲示し管理者と職員はそれを共有して、ケアの実践につなげている。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	④. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	町内会からは脱会しているが、高齢化が進んでいる近隣住民の希望もあり、夏の川掃除には、事業所から参加し共に作業をおこなっている。川掃除を通じ、合間に町内の方とお話をしたり、地域の一員として交流を行っている。また、コロナの影響もあり、近年は交流が少ないが、例大祭や避難訓練などの行事においても交流を図るよう努めている。敷地内外で地域住民と出会えば、立ち話等で会話を交わすなど、地域のつながりを大切にしている。 <b>【補足】</b> 今年の3月の夜間想定避難訓練では上岡田上町内、ミレニアムタウン町内、久多見消防分団にも参加していただいた。そのあと意見交換会も行い交流を図る。今年度も久多見地区自治協会賛助会員にも加入。	■委員(高齢者福祉課) 地域のイベント参加のイメージだがイベント参加の申し込みなどはありますか。 ホーム長 コロナ禍以降申込等はありません。 ■委員(高齢者福祉課) 地域の方が来られるイベントがあってもいいと思います。 ■委員(地域住民代表) 川掃除など職員の人数が足りないので大変。町内の方も高齢になってきているし県道なので県が管理してほしい。 ■委員(地域住民代表) 川掃除の参加も重要だが、施設の木など切るほうが優先ではと思う。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	④. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議開催に向け議題を考えることが、よりよい事業所運営を検討するいい機会となっている。当会議を身体拘束廃止委員会の場としても活用させてもらっているが、その際に認知症の方との関わり等、理解してもらえる場としてもいる。それが全職員のさらなる意識向上につながっている。運営推進会議を活用しての外部評価の実施の際にも、各委員の方から出た意見を積極的に取り入れ、サービスに反映させるよう意識している。	■委員(あんしん支援センター) 前回の会議で身体拘束廃止委員の報告を聞きましたが個別対応しておられ会議が活かされていていいと思います。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	④. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	3年ごとの制度改正前後には、積極的に連絡を取り、相談を行っている。また加算の算定や変更届の提出等に関しても、わからないことがあれば都度連絡を取り、助言をいただいている。介護事故のあった場合には、市への速やかな報告を心掛けている。その後の対応や本人の状態、再発防止策も追って報告し、協議を行っている。運営推進会議には委員として参加いただき、貴重な意見を頂戴している。当会議の報告書については、作成後、市へメール送信を行い、ホームページで閲覧できる仕組みを整えていただいている。介護サービス相談員派遣事業においても、相談員より意見をいただいたことをケアに反映したり、現在のケアサービスの取り組みを伝えるなどし、協力体制を築くよう努めている。	■委員(地域住民代表) 拝見する限りいいと思います。改正は3年ごとに毎回ありますか。給与の改定などもありますか。 ホーム長 毎回あります。給与改定もあります。しかし介護業界の人事不足はなかなか解消されません。 ■委員(地域住民代表) 男性職員の介助がダメな方もおられますか。 ホーム長 1名いらっしゃいます。		

5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	㊦. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為 11 項目を職員間で確認し合っている。また、それをラミネート加工したものを現場に置き常に意識するよう努めている。玄関の施錠については、一般家庭とほぼ同様に夜間(19 時 30 分から 8 時 30 分)は施錠を行い、日中は自由に出入りできる環境としている。特に安全面には配慮し、不安な様子が見られれば可能な限り付き添い、行動制限することなく過ごしてもらえるよう対応している。毎月、各利用者の担当職員がモニタリング評価を作成している。その中で、転倒防止などの目的で人感センサーを設置している利用者については、センサーの撤去が可能か否かを検討している。問題となるようなケアがあれば、ケア会議等で協議し対応を検討するようにしている。		A 満場一致	■委員(地域住民代表) この会議に参加させていただいてから色々なことを知りました。大変だと思います。職員間でしっかり話し合っていていいと思います。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	㊦. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待の背景として「不適切なケア」→「身体拘束」→「虐待」という順をたどるケースが大半を占めるため、「不適切なケア」の段階で芽を摘むよう問題提起し、改善するよう努めている。ケア会議や身体拘束廃止委員会を活用し、「不適切なケア」に該当するものはないか職員全員で考える場も設けている。職員のストレスも大きな要因のひとつなので、ストレスケアとして、管理者による面談(年 1 回)を行い、職場環境(働き方)の整備を行っている。 web による虐待防止の研修を行ったり、外部からの資料を回覧し各自が学ぶ機会を設けている。虐待防止委員会年に 1 回開催(4 月開催)。		A 満場一致	■委員(高齢者福祉課) 日頃から職員間で考え共有する場を設けておられていいと思います。職員との面談は1年に1回ではなく、もう少し回数を増やされてもいいと思います。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない ㊦. ほとんどできていない	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修などで学ぶ機会を得るよう心がけてはいるが、研修への参加等ができていないのが現状である。また、実践の場において先述の制度に関わる機会が現在までないため、活用までできていない現状もある。			

8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約の締結や解約の場面においては、重要事項説明書及び契約書を基に当事業所の特徴や強みや弱みを十分に説明し、理解、納得されたか確認しながら話を進めている。また、利用料金の改定などの場面ではその詳細を文書でお知らせしてから同意書を交わしている。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	玄関に意見箱を設置している。意見があったことはないが、意見があった場合には、全職員に周知、反映できる体制は整っている。意見の表明が困難な利用者に対し、家族や在宅生活時のケアマネに生活歴や好み等の聞き取りを入念に行い、少しでも望まれるような生活に近づけるよう努めている。入所時には契約書に示している「相談窓口」について、必ず説明を行っている。その窓口として「しあわせの里管理者」「第三者委員」「行政機関」を明記している。家族に対し、入所時やケア変更時、看取り期移行時の節目には、特に意見を伺うよう努めている。面会時や電話での様子報告時は、その内容を記録に残すようにし、職員全員で共有している。		A 満場一致	■委員（あんしん支援センター） 意見箱に意見が入っていたことはありますか。 ホーム長 意見箱にはないです。 ■委員（あんしん支援センター） 日々変わっていく状態の中で、節目や面会時などに要望を聞いておられるのは、大切なことだと思います。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	管理者と職員が一緒に参加する「運営会議」を定期的（概ね3ヶ月に1度）に開催し、多岐にわたる意見や提案を吸い上げるよう努めている。会議での内容は会議録として後に回覧し、全職員へ周知することで反映させている。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人として、昇給制度やキャリアアップの仕組みを構築し、処遇改善等加算を算定している。介護福祉士やケアマネ等の資格を所得した際には、法人として祝い金を支給している。不規則勤務者について、勤務間インターバル制度を意識し、前日勤務から一定の感覚をあけて翌日の勤務の始業時間を設定している。年1回程度、管理者は職員との面談を行っている。そこでそれぞれの思い等について把握、改善に努めるようにしている。今年度から法人で人事考課コンサルティングの導入決まる。（軌道に乗るまで3年程度の期間を要す）。		A 満場一致	■委員（地域住民代表） 祝金の金額は決まっていますか。 ホーム長 決まっています。 ■委員（地域住民代表） インターバル制度とは ホーム長 勤務する期間をあけて負担にならないよう勤務できるよう努めています。 ■委員（地域住民代表） コンサルティング導入も管理者の評価のレベルを合わせることは大変なことです。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機	①. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない	定期的に、管理者が職員と個別面談を行い、これから担って欲しい役割や身につけてほしいスキル等を伝えている。資格取得についても、情報提供を行っている。法人独自のキャリアアップシステムを作成しており、それぞれの職		A 満場一致	■委員（地域住民代表） 拝見する限りでは研修の工夫をしておられていいと思います。成年後見制度の研修もウェブでされるといいと思います。



		会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	D. ほとんどできていない	務階級についてどのような役割を担うことを期待しているかを、明確に示している。現在は参加しやすいように Web での研修会を中心に機会の確保を行っている。参加者は資料などで他職員にも周知を行いスキルアップに努めている。 【補足】少人数の利用者を少人数の職員が支援する事業運営を行っているため、リビング 1 人体制時には臨機応変な対応が必要である。各職員はその経験を積み重ねることで、優先順位を見極める力をほぼ習得できている。			
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナが 5 類へと移行したものの、認知症グループホーム連絡協議会主催の研修や社会福祉協議会主催の研修や勉強会等の機会が確保できていないのが現状であり、同業者が交流する機会がない。社会福祉協議会主催の合同研修にいたっては、今後も開催の見通しは立っていない状況である。近年、職員同士の交流の機会はほとんどない。管理者やケアマネ等が必要な研修で交流する機会を得ているくらいである。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の生活歴や価値観などから、各利用者のできる力に注目し、作業や家事に積極的に関与していただいている。また、定期的な安全確認のみで自由な時間に入浴または敷地内の散策を楽しまれる利用者も存在し、共に生活を送る関係を構築できている。			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	認知機能の低下が認められるものの、携帯電話を所有しておられる利用者様がおられる。そのことにより、馴染みのかた（家族）と連絡がとれる体制が維持できている。コロナも 5 類移行後は、徐々に面会制限を緩和し、現在は、相談室でのマスクを着用した対面形式での面会に戻している。窓越しだと会話が上手く成立せずに家族からの不満の声もあったが、会話を楽しみながら、利用者、家族にふれあいの場を提供することができるようになった。また、なじみの関係が途切れないよう、面会を依頼することも心がけている。ご家族には、日々の様子が分かるように、定期的（3 カ月毎）に広報誌を発行し、郵送している。看取り期においては、居室にソファを設置したり、またご家族専用の休憩室を設けたりと、人生最期までの時間を 1 秒でも長く付き添える環境設定を心がけている。決してリスク対策優先の思考に偏らずに対応するよう	<p>■委員（高齢者福祉課） 家族以外の面会はできますか。 ホーム長 制限はしていません。</p> <p>■委員（高齢者福祉課） 家に帰られたりはしますか。 ホーム長 それは以前からできます。ただ外泊はまだ実施していません。</p> <p>■委員（地域住民代表） 面会は予約制ですか。 ホーム長 勤務している職員数の関係もあり予約制にしています。</p>		

				心がけている。			
--	--	--	--	---------	--	--	--